



## 年末手当に対する若手の声②

### 労働実感について

- ・車両センターではコロナ禍でも仕事は変わらない。今年の夏も暑かった。それでもマスクを着用しての作業。コロナにかかるか、熱中症にかかるか、そのリスクの中で仕事をしてきた。
- ・コロナ禍といえども安全・安定輸送のために日々尽力している。輸送量は減っても業務量は変わらない。むしろお客さまからの目線は厳しくなる一方、私鉄での殺傷事件など凶悪犯罪に巻き込まれる可能性もないわけではない。ますます業務でのストレスは増えていく。
- ・仕事は減らないのに給料が下がるのは残念。
- ・仕事は減っていないどころか、むしろ施策に協力している。そこは汲んで欲しい。
- ・我々はそれぞれの分野にプロ意識を持ってしっかりと労働をしているのにそれだけでは評価されない。コロナを理由にタブレットを持参させられ、結局何でもどこでもできる環境ができている。
- ・労働自体は要員含めてきつくなる一方でワンマン施策、柔軟な働き方含めてのつなぎで今は自転車操業をしているような実感。
- ・労働密度は高まっている。兼務をしている仲間もいるし、専門性の高いものを複数こなしているのに賃金は変わらない。労働力は安く買ったたかわれている。

**社友会ではこのような声があっても交渉できない！！  
労働組合に結集し、年末手当の満額回答を勝ち取ろう！！**